

学習ポイント 1

意味と場面に合う漢字を使い分ける

同じ訓読みの漢字を、文の意味に合わせて選ぼう。送り仮名にも気を付け、選んだ理由を説明できることを目指す。

目標 同訓異字の代表的な意味の違いを理解する。／目的語や反対語を手がかりに漢字を選ぶ。／送り仮名を含めて正しく書き、使い分けを説明する。

同じ訓でも、使う漢字は違う

『会う・合う』のように、同じ訓を持つ別の漢字を同訓異字という。まず、誰が何をするのか、どんな状態なのかを読み取る。送り仮名も含め、言葉全体で確かめよう。

例1 『友人と会う』は、人と顔を合わせることに。

例2 『意見が合う』は、互いの考えが一致すること。

例3 『災難に遭う』は、好ましくない出来事に出くわすこと。

反対の言葉を思い浮かべる

似た意味の言葉は、反対の意味に言い換えると違いが分かることがある。

「何があたたかい」「何がはやいか」を確かめよう。以下は代表的な使い分けの目安で、表記が重なる場合もある。

例1 『冷たい』の反対なら『温かい』。気持ちや料理などに使う。

例2 『寒い』の反対なら『暖かい』。主に気温などに使う。

例3 『はやい』は、時間が前なら『早い』、動きの速度が大きいなら『速い』。

何を調べるのかで分ける

「はかる」は、調べる対象や目的を手がかりに使い分ける。以下は代表的な例で、表記が重なる場合もある。数値を調べるのか、何かの実現を目指すのかも確かめ、意味と短い例を結び付けて覚えよう。

例1 『測る』は長さ・高さ・広さなど。池の深さを測る。

例2 『量る』は重さや容積など。荷物の重さを量る。

例3 『計る』は時間や数など。作業にかかる時間を計る。

学習ポイント 2

意味と場面に合う漢字を使い分ける

意味に合う熟語を手がかりにする

同じ読みの候補を、その字を使う熟語と結び付ける方法もある。思い付いた熟語の意味と、文の意味が対応しているか確かめよう。

例1 勤務する『勤める』／任務を果たす『務める』／努力する『努める』

例2 収納する『収める』／納税する『納める』／修学する『修める』／統治する『治める』

例3 治療に関わる『治す』／間違いや故障を元に戻す『直す』

相手や目的語に注目する

『○○を』『○○に』の部分に、使い分けの手がかりがある。同じ動作に見えても、何を相手にしているかによって適切な漢字が変わる。

例1 紙に文章を『写す』／鏡に顔を『映す』

例2 心の動きを言葉に『表す』／隠れていた姿を『現す』

例3 路線図を見て電車に『乗る』／学校新聞に写真が『載る』

漢字と送り仮名を一緒に確認する

漢字だけ正しくても、送り仮名が合わなければ表記は完成しない。文の形を保って書き直そう。また、実際には複数の表記が使える場合もあるので、迷ったら辞書の用例を確認する。

例1 『答える』は『える』まで書く。問題が『こたえた』なら『答えた』とする。

例2 『窓があく』は『開く』。『窓をあける』なら『開ける』。

例3 『友達とわかれた』は『別れた』。文の形に合わせて送り仮名を残す。

使い方と参考資料

取り組み方・表記の基準・参照資料

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順に取り組みなさい。A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。

中学2年生の基礎～標準を中心に、既習事項の復習と文脈に応じた使い分けを扱います。全語が全国共通の中2新出事項という意味ではありません。

罫線は10mm間隔です。解答欄の番号や表示に合わせて答えなさい。余った行は空けて構いません。

本教材では、学習用の標準的な表記を練習します。辞書に認められる異表記をすべて解答に挙げているわけではありません。言い換え・別読・送り仮名は、各問の解答と採点基準を確認してください。

設問と例文はオリジナルです。特定の入試の出題頻度を示す教材ではありません。学習範囲や語義・表記は、次の資料を参照しました。

1 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第2学年・語彙

2 文化庁・文化審議会国語分科会『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』2014年

資料確認日 2026年10月12日。資料名から参照ページを開けます。